

# ティー・ロウ・プライス 米国成長株式ファンド

愛称：アメリカン・ロイヤルロード

お客さま向け資料  
2025年6月

## 2025年1-3月期の 運用状況と今後の見通し

平素は、「ティー・ロウ・プライス 米国成長株式ファンド（愛称：アメリカン・ロイヤルロード）」（以下、当ファンド）をお引き立ていただき、厚く御礼申し上げます。今回は、当ファンドの2025年1-3月期の運用状況についてご報告いたします。引き続き、当ファンドをご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 当レポートの要旨



共同運用責任者  
Joseph Fath  
ジョゼフ・ファス



共同運用責任者  
James Stillwagon  
ジェームズ・  
スタイルワゴン

- 2025年1-3月期の米国株式市場（米ドルベース）は、下落。低コストのAI（人工知能）モデル登場による既存のAI関連銘柄への影響が懸念されたことや、米政権の政策を巡る不透明感が嫌気された。
- 当ファンドの基準価額は15.7%下落。主に大型テクノロジー銘柄の株価の下落がマイナスに寄与し、円高の進行も重荷となった。
- 4月中旬以降、米国株式は回復局面へ。当ファンドでは、景気動向に左右されにくい銘柄やヘルスケア銘柄に加え、AI関連銘柄に着目するなど、**個別企業の成長機会を見極め、中長期で2桁以上の利益成長等が見込まれる企業を選別し、適正な水準で投資**を行う。

### 運用実績

### 2025年1-3月期の当ファンドの基準価額は、15.7%下落

#### 設定来の基準価額と純資産総額の推移



基準価額	22,253円
純資産総額	4,353億円
2025年3月31日時点	

期間	騰落率
3ヵ月	-15.7
6ヵ月	1.5
1年	3.7
3年	47.0
設定来	122.5

2025年3月31日時点

- 期間：2019年12月27日（設定日）～2025年3月31日
- 基準価額は1万口当たり、信託報酬等（後記の「ファンドの費用」参照）控除後のものです。表示期間において分配金のお支払いはありません。
- 上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の運用成果等を示唆、保証するものではありません。

## 2025年1-3月期の市場動向

## 米国株式市場

## トランプ大統領の政策を巡る不透明感などが嫌気され下落

2025年1-3月期の  
米国株式市場\*

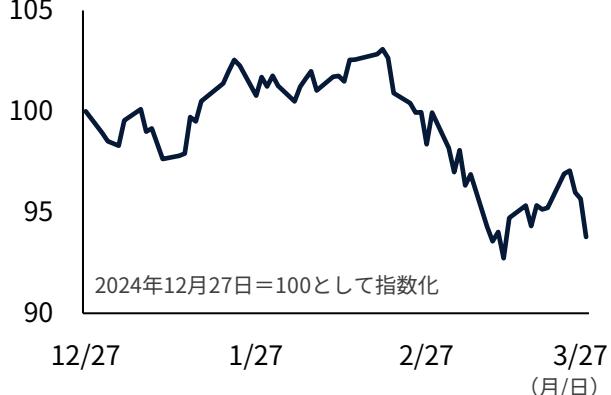
6.2% 下落

当期の米国株式市場は、下落しました。

1月は、概ね良好な企業業績に加え、米新政権が企業に有利な政策を打ち出す可能性があるとの楽観論が追い風となり、上昇しました。ただし、1月下旬には、中国の新興企業であるディープシーク社が低コストのAIモデルを発表し、既存のAI関連銘柄への影響が懸念され、下落する場面がありました。

2月中旬にかけては、主要企業の決算が概ね好調であったことから、米国的主要株価指数は一時史上最高値を更新しました。しかし、それ以降は、複数の経済指標の悪化を背景に、トランプ大統領の政策を巡る不透明感が想定以上に消費者の信頼感や企業の景況感を損ねている可能性が警戒され、下落しました。

## 米国株式市場\*の推移



\* 米国株式市場はS&P500指数（トータルリターン、米ドルベース）を基準価額の算出基準となる前営業日の値で表示。  
期間：2024年12月27日～2025年3月28日  
出所：ファクトセット

## 為替市場

## 景気減速懸念の高まりなどを背景に円高・米ドル安が進行

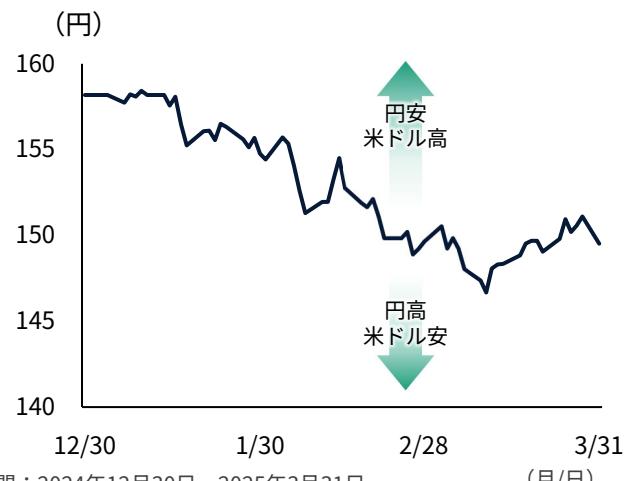
2025年1-3月期の  
米ドル円相場5.5%  
円高・米ドル安

当期の為替相場は、円高・米ドル安が進みました。

1月～3月中旬にかけては、米国では、経済指標の弱さに加え、企業や消費者の景況感の悪化が示されたほか、関税による景気減速への懸念が高まったことなどが米ドル安要因となりました。日本では、春闘の賃上げ要求が高水準となり、金融政策の正常化を後押しするにみられたことや、関税への警戒などから米国株式の調整が深まる中、安全通貨として円が買われたことなどが円高要因となりました。

3月後半には、ウクライナとロシアの停戦交渉の進展への期待や、米国の自動車関税により日本の景気も悪化し、日銀の利上げが後ずれするとの見方などから米ドルが買われ、1米ドル=150円近辺で期末を迎えました。

## 米ドル（対円）の推移



- 上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の運用成果等を示唆、保証するものではありません。

## ティー・ロウ・プライス 米国成長株式マザーファンドの運用状況

## パフォーマンス寄与度

低コストのAIモデルの登場や米中貿易摩擦の影響などから  
大型テクノロジー企業がマイナスに寄与

## プラス寄与銘柄



## スポットファイ

月間アクティブユーザー数やプレミアム加入者数の伸びに支えられた良好な決算発表が好感され、株価は上昇。

## ビザ

好調な年末商戦を背景に、決済額や取引件数の伸びを伴う良好な決算が発表され、株価は上昇。

## シグナ・グループ

保険会社。米国の景気後退懸念が高まるなか、ディフェンシブ銘柄として選好されたことや、薬剤管理事業の着実な成長などが評価され、株価は上昇。

## マイナス寄与銘柄



## エヌビディア

低コストのAIモデル登場による影響が懸念されたことや、米国の景気後退懸念を背景にグロース株式から資金流出したことなどを受け、株価は下落。

## アルファベット

クラウド事業の成長鈍化を背景に、売上高が市場予想を下回る低調な決算が発表され、株価は下落。

## アマゾン・ドット・コム

クラウド事業の成長鈍化を受けた低調な決算発表に加え、為替変動などの影響を受け慎重な業績予想を発表したことから、株価は下落。

出所: ファクトセット

- ・プラス寄与、マイナス寄与は、2025年1-3月期におけるマザーファンドの騰落率に占める寄与度を基に算出しています。

## 投資行動

## 割安な水準に達したと考える半導体関連銘柄などを組み入れ

## 購入・組入比率引き上げ



## ブロードコム

半導体メーカー。AIインフラの普及により、特定用途向け集積回路（ASIC）の用途拡大が見込まれるとみて、追加投資。

## 台湾セミコンダクター

半導体受託製造の大手。低コストのAIモデルの登場やAIインフラ投資の減速懸念から半導体関連銘柄が売られる中、割安とみて、追加投資（P5参照）。

## ローパー・テクノロジーズ

ニッチ市場向けにソリューションを提供する多角的なテクノロジー企業。事業成長の加速と業績見通しの上方修正が示されたことを評価し、追加投資。

## 売却・組入比率引き下げ



## オートデスク

エンジニアリングや建設関連のソフトウェア企業。インフラ投資の増加、脱炭素化、リショアリングなどを追い風に株価が上昇したことから、利益確定のため、全売却。

## テスラ

イーロン・マスク氏の政治的な発言への反発から不買運動が広がったことや、一部の工場の操業停止などが利益率を圧迫するとみて、一部売却。

## スポットファイ

良好な決算発表が好感され株価が上昇したことなどから、利益確定のため、一部売却。

- ・引用した個別銘柄等につき、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものではありません。
- ・また、上記は過去の保有状況を示しており、将来の組み入れまたは売却を示唆・保証するものではありません。

- ・上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

## 今後の見通しと当ファンドの運用方針

## 運用方針

変動性が高い市場環境が続くなか、  
個別企業の投資機会を見極める

## 4月中旬より株式市場は回復傾向を辿るも、トランプ大統領の各種政策には注視が必要

米国株式市場は、足元、4月初旬の相互関税発令による急落から一転し、関税の一時停止や米中相互関税の引き下げ合意、インフレの鈍化、テクノロジー株式の上昇などを背景に急速に回復しています。ただし、相互関税導入の影響や実施に対する不確実性、その他の米政権による政策は、企業や消費者の心理に大きな影響を与えており、引き続き注視する必要があります。

## 景気動向に左右されにくい銘柄やヘルスケア銘柄に加え、AI関連銘柄の投資機会に着目

当ファンドの運用方針に変更はありません。引き続き、**市場全体の動向に一喜一憂せず、個別企業の成長機会を見極め、中長期で2桁以上の利益やキャッシュフローの成長が見込まれる企業を選別し、適正な水準で投資します。**

足元では、競争優位性の高さなどから景気動向に左右されにくく成長が期待される銘柄、株価下落により投資妙味のある水準に達したと考える銘柄、ディフェンシブな性質を有するヘルスケア関連銘柄などに注目しています。

また、引き続き、**AI関連銘柄は、社会の変革を促し、膨大な投資機会と経済環境に左右されないパフォーマンスをもたらす可能性を有している**と考えています。

一方、中長期的に関税政策がプラスの影響をもたらす可能性も考えられます。**トランプ政権が一連の関税による歳入を所得減税や法人減税の原資と考えているならば、今後、米国では財政刺激策による国内景気浮揚の可能性**も考えられます。

す。当運用チームでは、1月のディープシーク社による低コストのAIモデル発表や、4月初旬の相互関税発令後に米国株式市場が急落した場面で、割安な水準に達したと考える半導体関連銘柄などを買い増してきました。4月中旬以降の米国株式市場の回復局面においては、相場下落局面で投資を行った半導体関連銘柄が大きく反発しています。

また、今後、**AIインフラへの多額の投資を数年で利益に転換できる可能性が最も高いと注目しているのは、アプリケーション開発企業**です。AIコンピューティングや推論の発展などによりAIが自律的な動作を行うにつれて、画期的な進化がみられる企業が登場し、マネタイズ（収益化）が有意義な形で実現するでしょう。

## 足元の注目銘柄例



競争優位性の高さなどから景気動向に左右されにくく成長が期待される銘柄

ビザ、ネットフリックス



株価下落により投資妙味のある水準に達したと考える銘柄

台湾セミコンダクター、ローパーテクノロジーズ



ディフェンシブな性質を有するヘルスケア関連銘柄

イーライリリー・アンド・カンパニー、シグナ・グループ

- 将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。
- 引用した個別銘柄等は情報提供を目的として記載したものであり、特定の国・地域、業種、個別銘柄を推奨するものではありません。
- また、当社ファンドでの保有・非保有および将来の組み入れまたは売却を示唆・保証するものではありません。
- 上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

## 当ファンドの組入銘柄のご紹介

## 持続成長

Mastercard  
(マスターカード)

## 関税導入による販売価格上昇が追い風

約120カ国、約8,000万件の加盟店\*を繋ぐ、クレジットカードの国際ブランドを管理・運営。

同社は、カードの発行や融資は行わず、カード会社や加盟店、消費者を繋ぐ決済インフラに特化しています。そのため、在庫や貸し倒れリスクを抱えず運営コストが抑えられるとともに、利用額・件数の増加が収益拡大に繋がるという利益率の高い事業構造を有します。

運用チームでは、上記の事業構造や価格決定力を背景に、今後も2桁台の利益成長を見込んでいます。また、相互関税の導入により、様々な商品の販売価格が上昇し、クレジットカードの利用額増加が見込まれることや、競合他社であるビザと比較して、米国と中国における売上比率が低いことも評価しています。

## 循環成長

## Taiwan Semiconductor Manufacturing Company (台湾セミコンダクター)

## 多様な需要に応える生産能力と技術革新が強み

世界最大の半導体受託製造会社。特に、最先端の半導体チップの製造に強みを有する。

半導体は、AI向けのデータセンター、スマートフォン、自動車、IoTなどの数多くの分野において、旺盛な需要が見込まれています。同社は、その幅広い製品需要に対応可能な生産能力を有しています。加えて、半導体の高性能化、高速化、省電力効果などが期待される微細化技術で業界をけん引し、優位性を確立してきました。

運用チームは、同社の生産能力と半導体設計企業との協業による継続的な技術革新を高く評価しています。足元、低コストのAIモデルの登場やAIインフラ投資の減速懸念などを背景に半導体関連銘柄全体が下落した場面において、同社の株価が割安な水準に達したとみて、追加投資しました。

\*2025年5月26日時点における同社ホームページ記載の数値。

出所：各社ホームページ、決算資料、ファクトセットより取得可能な情報を基にティー・ロウ・プライスが作成。

- 引用した個別銘柄等は情報提供を目的として記載したものであり、特定の国・地域、業種、個別銘柄を推奨するものではありません。
- また、記載時点における保有状況であり、当社ファンドでの保有・非保有および将来の組み入れまたは売却を示唆・保証するものではありません。
- 上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

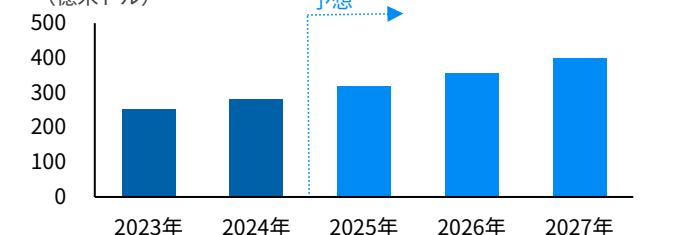
## 株価推移

(米ドル)



## 売上高推移

(億米ドル)

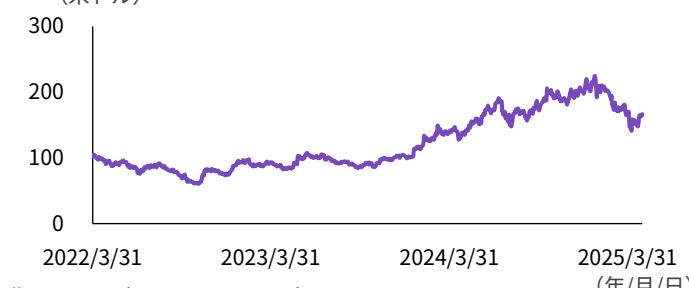


期間：2023年12月期～2027年12月期

2025年12月期以降はファクトセットが集計した2025年5月26日時点のアナリスト予想値

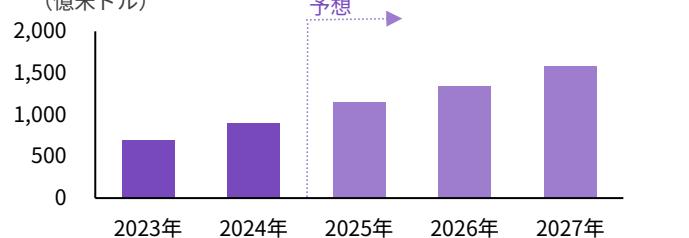
## 株価推移

(米ドル)



## 売上高推移

(億米ドル)

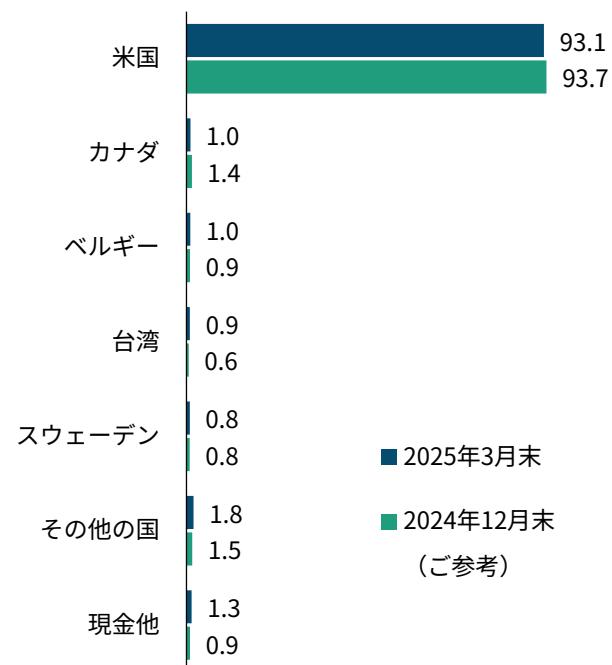


期間：2023年12月期～2027年12月期

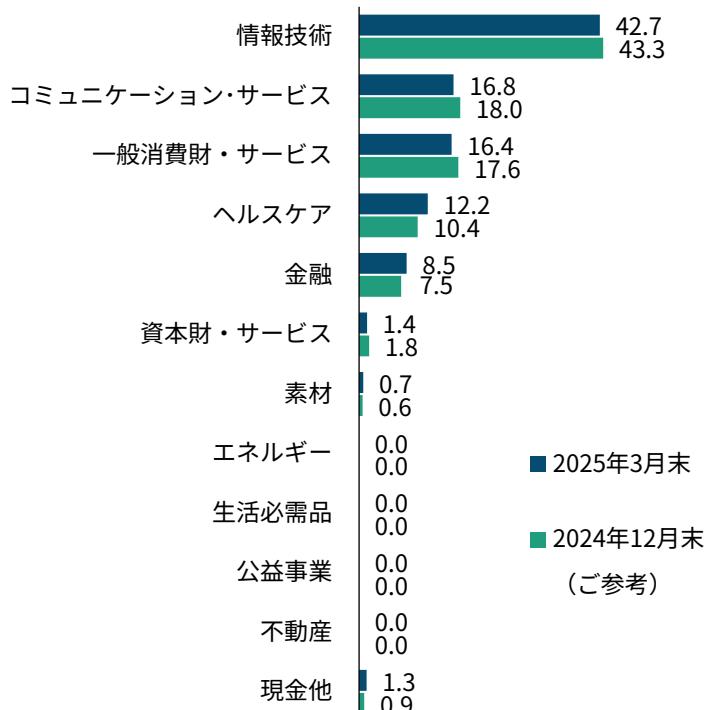
2025年12月期以降はファクトセットが集計した2025年5月26日時点のアナリスト予想値

## ティー・ロウ・プライス米国成長株式マザーファンドの状況

## 国・地域別配分の変化 (%)



## セクター別配分の変化 (%)



## 組入上位10銘柄の変化

	銘柄名	セクター	国・地域	構成比		(ご参考)
				2025年3月	2024年12月	
1	マイクロソフト	情報技術	米国	8.9%	8.7%	
2	アップル	情報技術	米国	8.8%	8.9%	
3	アマゾン・ドット・コム	一般消費財・サービス	米国	8.6%	8.8%	
4	エヌビディア	情報技術	米国	8.3%	8.8%	
5	アルファベット*	コミュニケーション・サービス	米国	6.6%	7.7%	
6	メタ・プラットフォームズ	コミュニケーション・サービス	米国	6.2%	6.7%	
7	イーライリリー・アンド・カンパニー	ヘルスケア	米国	3.8%	3.3%	
8	ビザ	金融	米国	3.6%	3.0%	
9	ネットフリックス	コミュニケーション・サービス	米国	2.8%	2.3%	
10	マスターカード	金融	米国	2.7%	2.5%	

\*当該銘柄は、同一企業の発行する種類の異なる株式を合算しています。

・構成比はすべて「ティー・ロウ・プライス米国成長株式マザーファンド」の対純資産総額の比率です。

・国はMSCI、セクターは世界産業分類基準（GICS）の分類によります。ティー・ロウ・プライスは、将来の報告についてGICSの更新があればそれに従います。GICSの情報は後記の「世界産業分類基準（GICS）について」をご確認ください。

・現金他には、キャッシュのほか未収・未払金等を含んでおり、マイナスとなる場合もあります。

・当該銘柄の売買を推奨するものではありません。

また、記載時点における保有状況であり、当社ファンドでの保有・非保有および将来の組み入れまたは売却を示唆・保証するものではありません。

・上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。



創設者  
トーマス・ロウ・プライス Jr.



No.1

米国機関投資家向け  
米国株式アクティブ  
運用資産残高<sup>\*1</sup>



85年超

1937年、  
ボルティモアにて  
創業



アクティブ  
運用の雄

\*1 Pensions & Investmentsによる年次調査に基づく、適格退職年金、基金、財団などの米国の非課税機関投資家向けの運用資産残高（外部委託を除く自家運用分、2023年末時点）。ティー・ロウ・プライスの運用資産残高は、ティー・ロウ・プライス・アソシエイツ・インクのみが集計対象です。

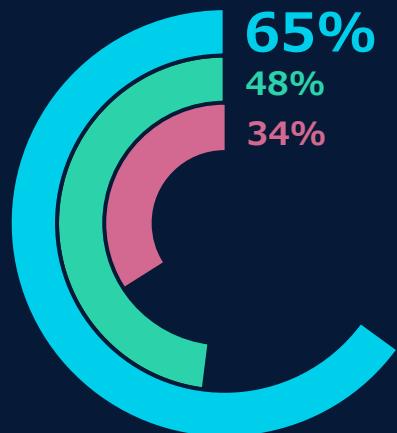
\*2 2025年3月末時点。1米ドル=149.540円で換算。グループ全体の運用資産には、ティー・ロウ・プライス・アソシエイツ・インクおよび関連投資顧問による運用資産残高を含みます。

\*3 2025年3月末時点。

## 米国株式ファンドにおいて

### 10年間のパフォーマンスでインデックスファンドを上回った割合

2024年12月末時点



65% ティー・ロウ・プライス<sup>\*4</sup>

48% 運用残高トップ5のアクティブ運用会社平均<sup>\*5</sup>

34% 全アクティブ運用会社平均<sup>\*6</sup>



ティー・ロウ・プライスの米国株式ファンドは、  
インデックスファンドを上回るリターンを  
長期かつ着実に実現してきました。  
この長期的な実績は、厳格なリサーチと  
数字にとらわれず隠れた投資機会を  
発掘してきた深い洞察によるものです。

出所：モーニングスターのデータをもとにティー・ロウ・プライスが作成

\*1 10年間の月次ローリング・リターン（2005年1月1日～2024年12月31日）を基に算出。比較対象とするインデックスファンドは、モーニングスター・ダイレクトで「インデックスファンド」に分類され、分析対象のアクティブファンドと同じモーニングスター・カタゴリーに属する米国株式ファンド（米国の投資信託およびETF、以下同様）。全てのアクティブ運用会社は、ティー・ロウ・プライスを除く、アクティブ運用を行う米国株式ファンド。分析は、インデックスファンドが存在するモーニングスター・カタゴリー内の全ての米国株式ファンドを対象に同一カタゴリーレベルで実施。最長シェアクラスのリターンを使用。ローリング・リターンは、リターン計測期間の起点と終点を1カ月ずつずらしながら10年の保有期間のリターンを計算。

\*2 24ファンド（延べ2,708期間）

\*3 ティー・ロウ・プライスを除く165ファンド（延べ16,121期間）。本分析で対象とした全ファンドにおける2024年12月末時点のアクティブ運用資産残高上位5社が対象。

\*4 ティー・ロウ・プライスを除く1,827ファンド（延べ160,899期間）。

モーニングスターについて:著作権はモーニングスターに帰属します。当資料に含まれる情報は、(1) モーニングスターおよび情報提供業者のものであり、(2) 複写や配布を禁じ、(3) 情報の正確性、完全性、迅速性は保証されておりません。モーニングスターと情報提供業者はこの情報の使用により被る損害・損失に対し責任を負いません。

\*5 上記は過去の実績・状況であり、将来の投資成果等を示唆・保証するものではありません。

## ファンドの特色

**1** ティー・ロウ・プライス 米国成長株式マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)への投資を通じて、主として米国の株式の中で、成長性が高いと判断される企業を中心に投資を行います。

なお、米国以外の企業にも投資する場合があります。

**2** 銘柄選択に関しては、個別企業分析に基づく「ボトム・アップ・アプローチ<sup>\*1</sup>」を重視した運用を行います。個別企業分析にあたっては、ティー・ロウ・プライス<sup>\*2</sup>のアナリストによる独自の企業調査情報を活用します。

\*1 ボトム・アップ・アプローチとは、アナリストの個別企業に対する調査や分析等に基づきその企業の投資価値を判断し、個別銘柄を選択する運用手法です。

\*2 委託会社およびその関連会社をいいます。

**3** 実質外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

※市場動向、資金動向、信託財産の規模等により、上記のような運用ができない場合があります。

※上記は当ファンドの主たる投資対象であるマザーファンドの特色を含みます。

## 投資リスク

### 基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じことがあります。当ファンドが有する主なリスク(ファンドの主たる投資対象であるマザーファンドが有するリスクを含みます。)は以下の通りです。

#### 株価変動リスク

当ファンドは、米国の株式を主要な投資対象としますので、その基準価額は、株式(米国預託証券(ADR)等を含みます。)の値動きにより、大きく変動することがあります。株価は、発行企業の業績、市場での需給関係、政治・経済・社会情勢等の影響を受けて、ときには大きく変動します。発行企業が経営不安や倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。

#### 為替変動リスク

当ファンドは、原則として対円で為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を直接受けます。したがって、為替相場が円高方向に進んだ場合は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、為替相場は大きく変動する場合があります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## お申込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位とします。	信託期間	原則として無期限(設定日: 2019年12月27日)
	購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。		次のいずれかに該当する場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し、当該信託を終了(繰上償還)することができます。
	購入代金	販売会社の定める期日までにお支払いください。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・受益権口数が30億口を下回こととなった場合</li> <li>・信託契約を解約することが受益者のため有利であると認める場合</li> <li>・信託契約を解約することに正当な理由がある場合</li> </ul>
換金時	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。	繰上償還	毎年11月15日(休業日の場合は翌営業日)
	換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお申込みの販売会社でお支払いします。	決算日	年1回の決算時に、分配方針に基づいて分配を行います。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。
申込について	申込締切時間	原則として、午後3時30分までに販売会社が受けた分を当日のお申込み分とします。 ※販売会社によっては上記と異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にお問い合わせください。	収益分配	1兆円を上限とします。
	換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、委託会社の判断により、別途制限を設ける場合があります。	公告	公告を行う場合は日本経済新聞に掲載します。
	購入・換金申込不可日	ニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行の休業日には、お申込みの受付は行いません。	運用報告書	毎年11月の決算時および償還時に、期中の運用経過などを記載した交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて知れている受益者に対して交付します。
	購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情等があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。 なお、主要投資対象市場の規模・流動性等を勘案し、購入のお申込みの受付を制限することがあります。	課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 一定の要件を満たした公募株式投資信託は、税法上、少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」の適用対象となります。 当ファンドはNISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 配当控除の適用はありません。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		投資者が信託財産で間接的に負担する費用	
購入時手数料	購入価額に3.3%(税抜3.0%)を上限として、販売会社が独自に定める率を乗じて得た額です。 購入時手数料は、商品および関連する投資環境の説明・情報提供、ならびに購入に関する事務コストの対価として、購入時に販売会社にお支払いいただきます。	運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に対し、年1.463%(税抜1.33%)の率を乗じた額が運用管理費用(信託報酬)として毎日計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期の最初の6ヵ月終了日(休業日の場合は翌営業日とします。)および毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。
	ありません。	信託事務の諸費用等	法定書類等の作成等に要する費用(有価証券届出書、目論見書、運用報告書等の作成、印刷、交付および提出にかかる費用)、監査費用、計理業務およびこれに付随する業務にかかる費用等は、ファンドの純資産総額に対して年率0.11%(税抜0.1%)を上限とする額が毎日計上され、毎計算期の最初の6ヵ月終了日(休業日の場合は翌営業日とします。)および毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。
信託財産留保額		その他の費用・手数料	組入有価証券の売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用等が、ファンドから支払われます。 ※運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することはできません。
		売買委託手数料等	

※上記の手数料・費用等の合計額等については、投資者のみなさまがファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## 投資信託および当資料に関する注意事項

- 当資料は、ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社が作成したお客さま向け資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性あるいは完全性について保証するものではありません。
- 当資料における見解等は資料作成時点のものであり、将来事前の通知なしに変更されることがあります。また、当資料で示したデータ等は、情報提供を目的として掲載したものであり、将来の投資成果を示唆、または保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、お客さまの資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じることがあります。
- ご購入の際は投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめまたは同時に渡しますので、必ずお受け取りのうえ、内容をよく読み、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、預金や保険契約ではありません。また、預金保険機構や保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。購入金額については、元本および利回りの保証はありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただく投資信託は、投資者保護基金の支払対象ではありません。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 著作権はティー・ロウ・プライスに帰属します。「T. Rowe Price」、「INVEST WITH CONFIDENCE」、大角羊（ビッグホーン・シープ）のデザイン等（<https://www.troweprice.com/en/intellectual-property>）は、ティー・ロウ・プライス・グループ・インクの商標です。その他全ての商標は、それぞれの所有者の所有財産です。当資料はティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社の書面による同意のない限り他に転載することはできません。

## 収益分配金に関する留意点

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

## 当資料で使用している指標・データについて

- S&P500インデックスはS&P Dow Jones Indices LLCまたはその関連会社（「SPDJI」）の商品であり、これを利用するライセンスがティー・ロウ・プライスに付与されています。Standard & Poor's®およびS&P®は、Standard & Poor's Financial Services LLC（「S&P」）の登録商標で、Dow Jones®は、Dow Jones Trademark Holdings LLC（「Dow Jones」）の登録商標です。ティー・ロウ・プライスの商品は、SPDJI、Dow Jones、S&P、それらの各関連会社によってスポンサー、保証、販売、または販売促進されているものではなく、これらのいずれの関係者も、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、S&P500インデックスのいかなる過誤、遗漏、または中断に対しても一切責任を負いません。
- 金融データと分析の提供はファクトセット。Copyright 2025 FactSet. すべての権利はファクトセットに帰属します。

## 世界産業分類基準（GICS）について

世界産業分類基準（「GICS」）は、モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル（「MSCI」）およびマグロウヒル・カンパニーズ傘下のスタンダード&プアーズ（「S&P」）が開発した独占的財産およびサービスマークであり、ティー・ロウ・プライスにライセンス供与されています。MSCI、S&PまたはGICSの作成、編集もしくはGICS分類に関与する第三者はいずれも、当該基準や分類（またはその利用から得られた結果）について明示的にも暗示的にもいかなる保証や表明もしません。また、すべての関係当事者は、当該基準や分類のいずれについても、その独創性、正確性、網羅性、商品性または特定の目的適合性について、いかなる保証からも明示的に免責されます。前述の内容を制限することなく、MSCI、S&P、その関連会社またはGICSの作成、編集もしくはGICS分類に関与する第三者はいずれの場合も、直接的、間接的、特別、懲罰的、結果的またはその他のいかなる損害（逸失利益を含む）について、その発生可能性が通知されていたとしても、いかなる責任も負いません。

## 販売会社・運用会社

お申込み・投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は

商号等			加入協会			
日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会			
みずほ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第94号	○	○	○	○
株式会社みずほ銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第6号	○		○	○

※○印は加入を意味します。

設定・運用は



T.Rowe Price

ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第3043号

加入協会：一般社団法人 日本投資顧問業協会／一般社団法人 投資信託協会／

一般社団法人 第二種金融商品取引業協会